

9 生活環境配慮書

産業廃棄物処理施設の設置等が周辺地域の生活環境に及ぼす影響を調査した結果及びこれに対する措置を講じる内容を記載した生活環境配慮書を添付してください。

生活環境配慮書

株式会社 ケンテック

1.産業廃棄物処理施設の設置等に関する計画等

1-1計画事業者

住所 東京都江戸川区中葛西八丁目4番1号

氏名 株式会社ケンテック

代表取締役 浅井 健太

電話番号 03-5659-6553 (本社)

1-2産業廃棄物処理施設の設置場所

住所 埼玉県さいたま市岩槻区大字笹久保字峰谷104番、105番、106番
以上3筆

電話番号 03-5659-6553 (本社)



図1.1 位置図

1-1 産業廃棄物処理施設の概要

- ・産業廃棄物の積み替え保管
- ・産業廃棄物の種類 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず（がれき類を除く。）及び陶磁器くず、がれき類、ゴムくず 以上8種類
- ・産業廃棄物保管施設の面積 360.0 m²
- ・保管容量 405.0 m³
- ・保管高さ 2.4 m

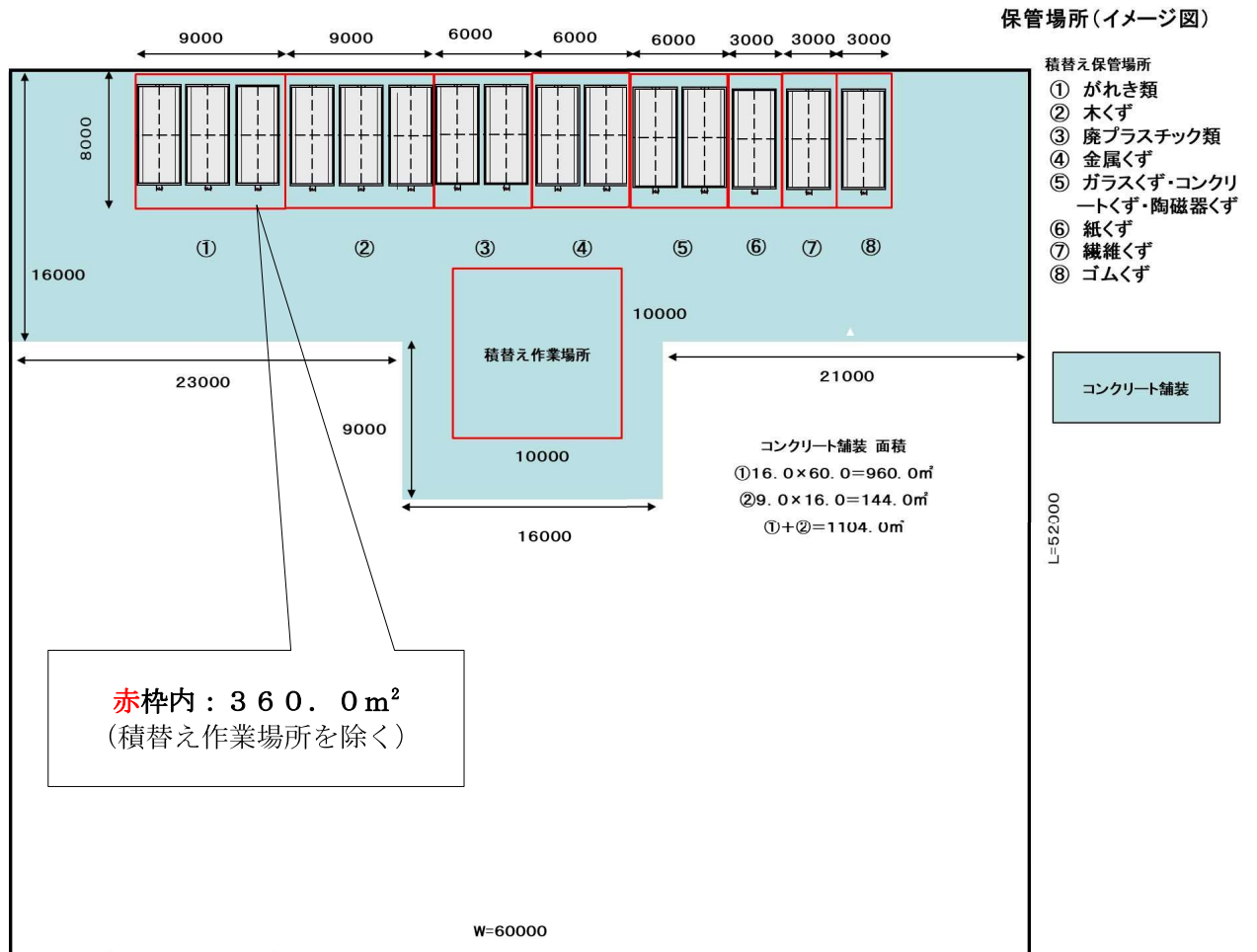


図1.2 保管施設全体図

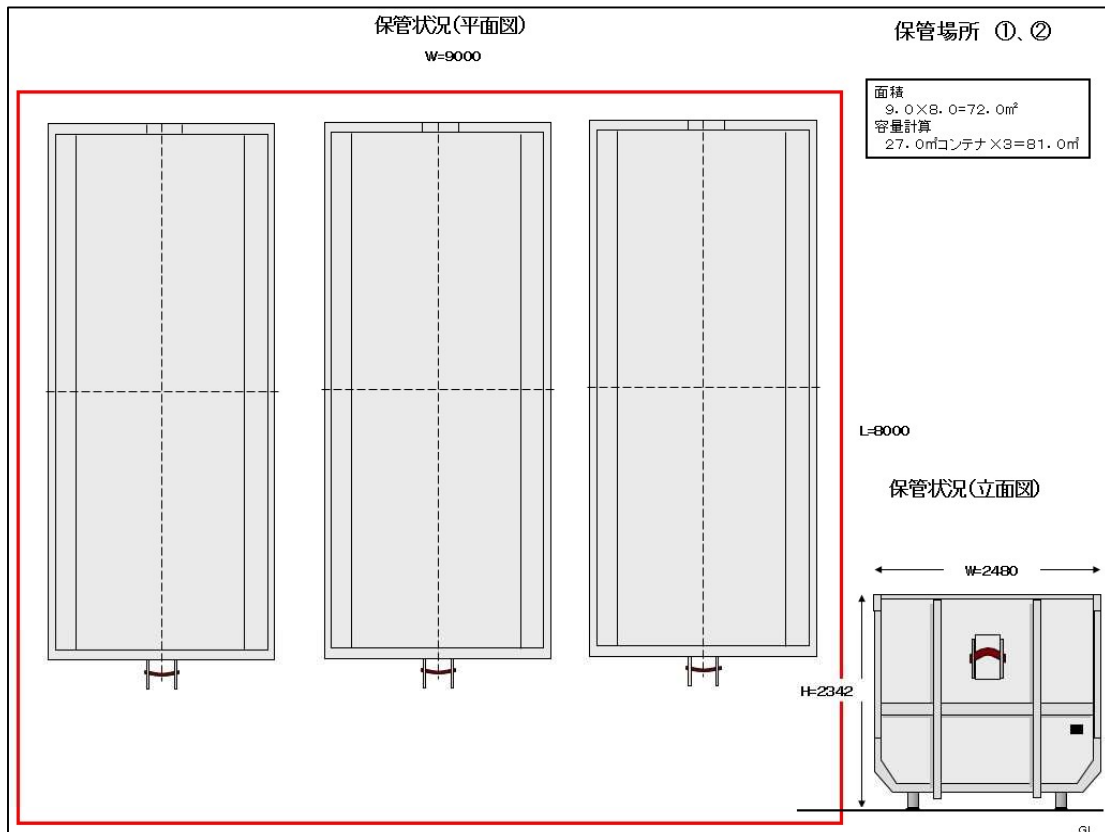


図1.3 保管場所①、②

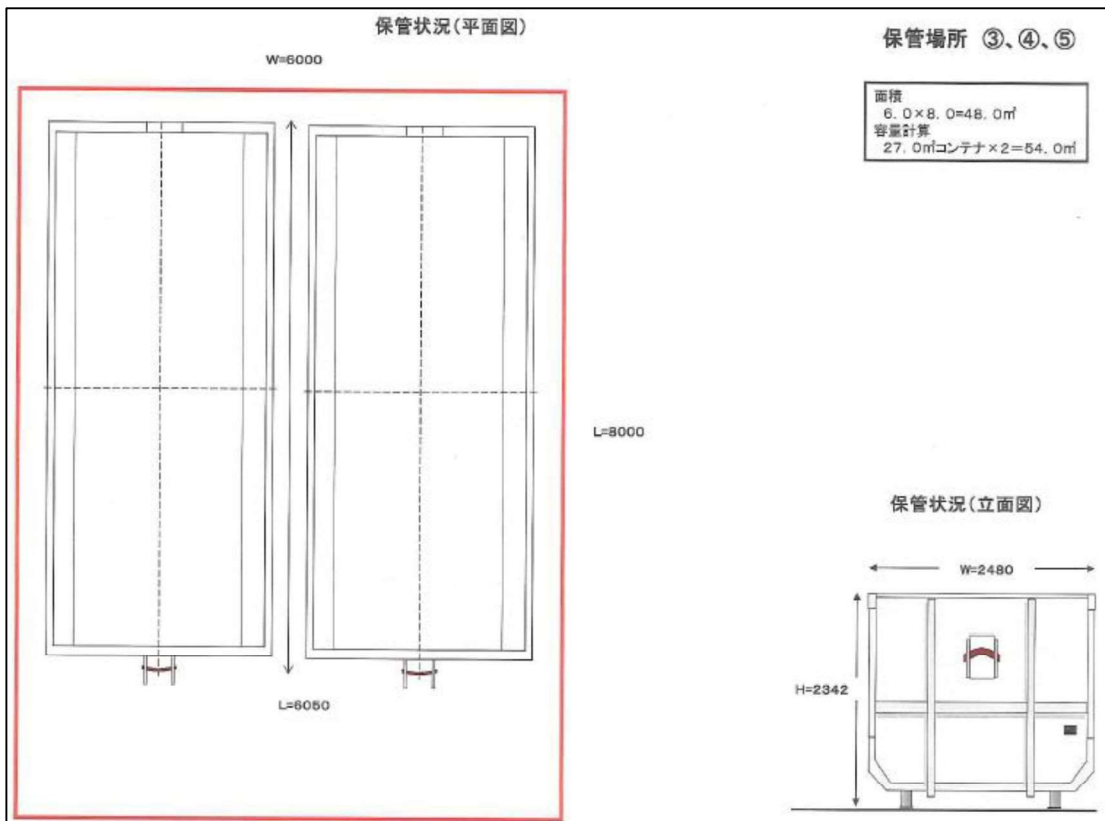


図1.4 保管場所③、④、⑤

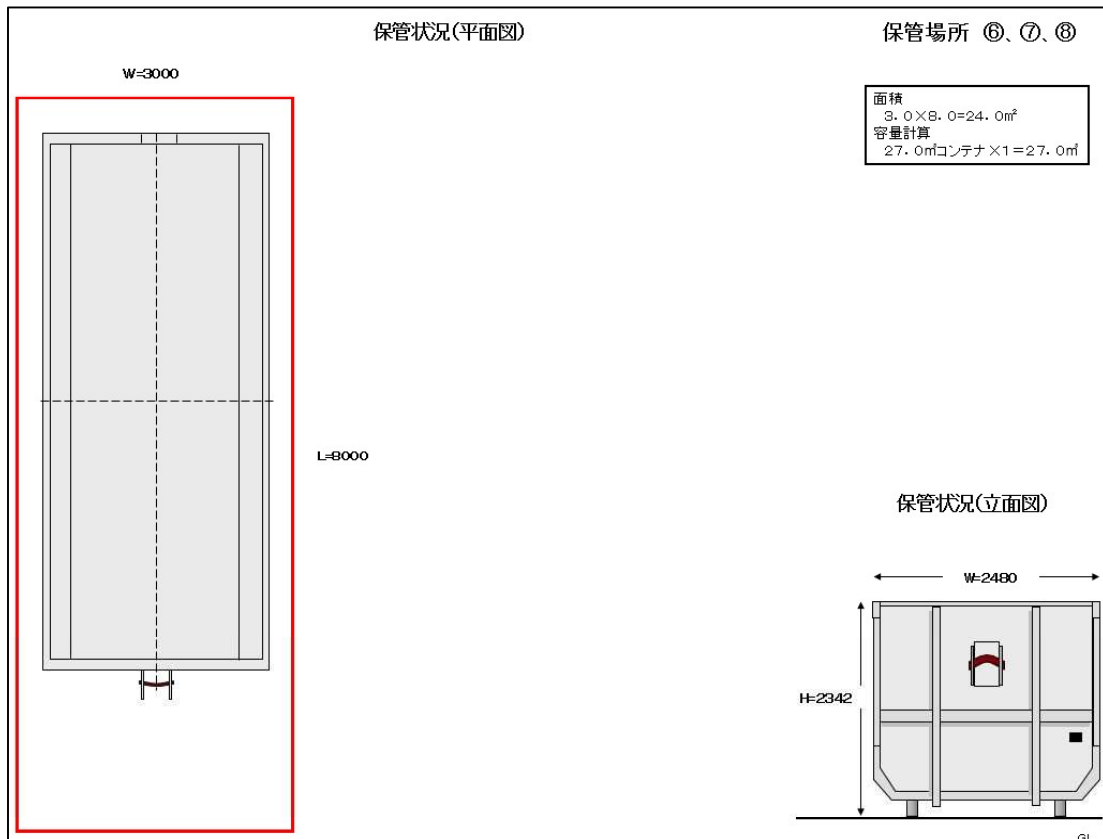


図1.5 保管場所⑥、⑦、⑧

表1.1 保管容量計算書

| 保管場所 | 面積 m^2 | 保管容器 | 保管容器数 | 保管容量 m^3 |
|------|-----------------|---------------------------|-------|-------------------|
| ① | 72 | 27.0 m^3 コンテナ | 3 | 81 |
| ② | 72 | | 3 | 81 |
| ③ | 48 | | 2 | 54 |
| ④ | 48 | | 2 | 54 |
| ⑤ | 48 | | 2 | 54 |
| ⑥ | 24 | | 1 | 27 |
| ⑦ | 24 | | 1 | 27 |
| ⑧ | 24 | | 1 | 27 |
| 計 | 360 | — | 15 | 405 |

2. 生活環境の保全についての配慮事項

2-1 地域特性

調査対象地域は、産業廃棄物の保管施設から 200m の範囲

ア 住宅、事業所及び特に環境保全についての配慮が必要となる病院や学校などの施設

- ・周辺に住宅、事業所は存在するが特に環境保全について特段の配慮が必要となる病院や学校などの施設はないが、近隣住宅及び事務所等への環境配慮が必要である。



図2.1 調査範囲 200m

イ 道路及び交通の状況

- ・計画地の東側に蒲生岩槻線が通る。

ウ 用途地域、地形及び土地利用の状況

- ・市街化調整区域、綾瀬川流域に面し、田畑に囲まれ、周辺には住宅が点在する。

エ 環境の保全を目的とする法律及び条例の適用状況並びに計画等の指定状況

- ・環境基本法、さいたま市生活環境の保全に関する条例 第 37 条第 4 号アの作業場の騒音・振動規制、第 38 条第 2 項悪臭規制

2-2 生活環境の保全のために配慮すべき事項

積み替え保管であるため、配慮すべき事項は廃棄物運搬車両による大気汚染、騒音振動及び重機による大気汚染（粉じん）・騒音・振動である。

3. 生活環境調査

表3.1 選定項目

| 調査事項 | | 生活環境影響要因 | 積み替え作業 | 産業廃棄物の保管 | 廃棄物運搬車両の走行 |
|------|-----|----------|--------|----------|------------|
| 大気環境 | 大気質 | 二酸化窒素 | — | — | ○ |
| | | 浮遊粒子状物質 | — | — | ○ |
| | | 粉じん | × | × | × |
| | 騒音 | 騒音レベル | ○ | — | ○ |
| | 振動 | 振動レベル | ○ | — | ○ |
| | 水質 | | — | × | — |
| | 臭気 | | — | × | — |

3-1 選定した項目及びその理由

産業廃棄物運搬車両の走行 大気質、騒音、振動

産業廃棄物の積み替え作業 騒音、振動

理由 車両の走行による大気質、騒音、振動への影響と、積み替え時の重機による騒音、振動の影響を否定できない。

3-2 選定しなかった項目及びその理由

産業廃棄物の保管 悪臭、大気質、水質

理由 下記対策により悪臭、大気質（粉じん）、水質に影響はない。

※なお、粉じんについては、近隣住宅が150m以上離れているため、選定から除く。

対策

- ・保管場所周辺の必要に応じた散水及び定期的な清掃を行い、粉じんを抑制する。
- ・悪臭を伴う廃棄物は取扱しない。
- ・保管時はシートを掛け、粉じんの飛散を防止する。
- ・廃棄物が腐敗しないよう注意を払い、早期搬出を実施する。
- ・積み替え保管のため稼働に伴う排水はない。雨水については、雨水桝に網を設置し粉じん等の流出を防止する。
- ・容器設置場所はコンクリート舗装とし、地下浸透を防止する。

3-3 調査結果

① 産業廃棄物運搬車両の走行 大気質、騒音、振動

本事業計画における1日の産業廃棄物運搬車両の走行車両は8台（往復で16台）である。搬入車両の主要経路（図3.1.1参照）は蒲生岩槻線及び新方須賀さいたま線、搬出車両の主要経路（図3.1.2参照）は新方須賀さいたま線、国道122号線であり、各主要経路の交通量に対する増加車両の寄与率（搬入・搬出車両とも16台で算出）は搬入・搬出とも0.1%以下であり、廃棄物運搬車両による大気質、騒音、振動への影響は非常に少ない。また、経路南側の住宅の直近道路（さいたま市道6384号線：図3.1.3参照）は、運搬経路になっていないので、影響を回避出来る。

*次ページの計算式参照

表3.2 平成27年度一般交通量

| 区分 | 昼間12時間 | | | 24時間 | | |
|---------------------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|
| | 小型 | 大型 | 合計 | 小型 | 大型 | 合計 |
| 蒲生岩槻線 C60390 | 8,051 | 2,051 | 10,102 | 10,793 | 2,542 | 13,335 |
| 新方須賀さいたま線 C60260 | 7,000 | 2,247 | 9,247 | 9,522 | 2,921 | 12,443 |
| 国道122号線 C14040 | 14,584 | 6,392 | 20,976 | 20,901 | 7,836 | 28,737 |

出典：平成27年度交通センサスより抜粋

a. 搬入車両の現況交通量に対する寄与率

* 蒲生岩槻線 + 新方須賀さいたま線 昼間12時間 19,349台 搬入車両台数 16台
 $16 \div (10,102 + 9,247 + 16) \times 100 = 0.083\%$

b. 搬出車両の現況交通量に対する寄与率

* 新方須賀さいたま線 + 国道122号線 昼間12時間 30,223台 搬出車両台数 16台
 $16 \div (9,247 + 20,976 + 16) \times 100 = 0.053\%$

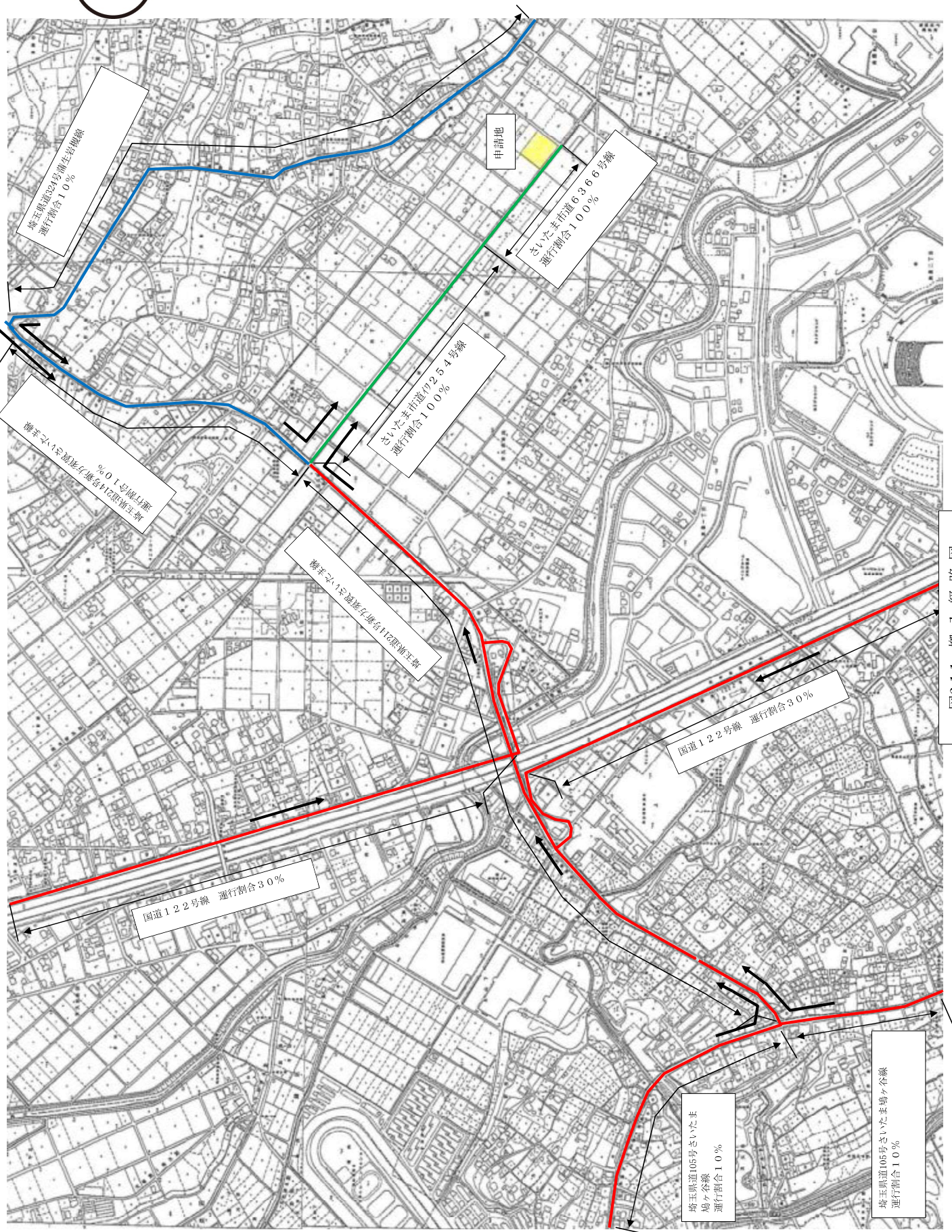
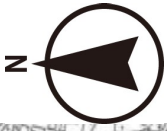


図3.1.1 搬入経路図

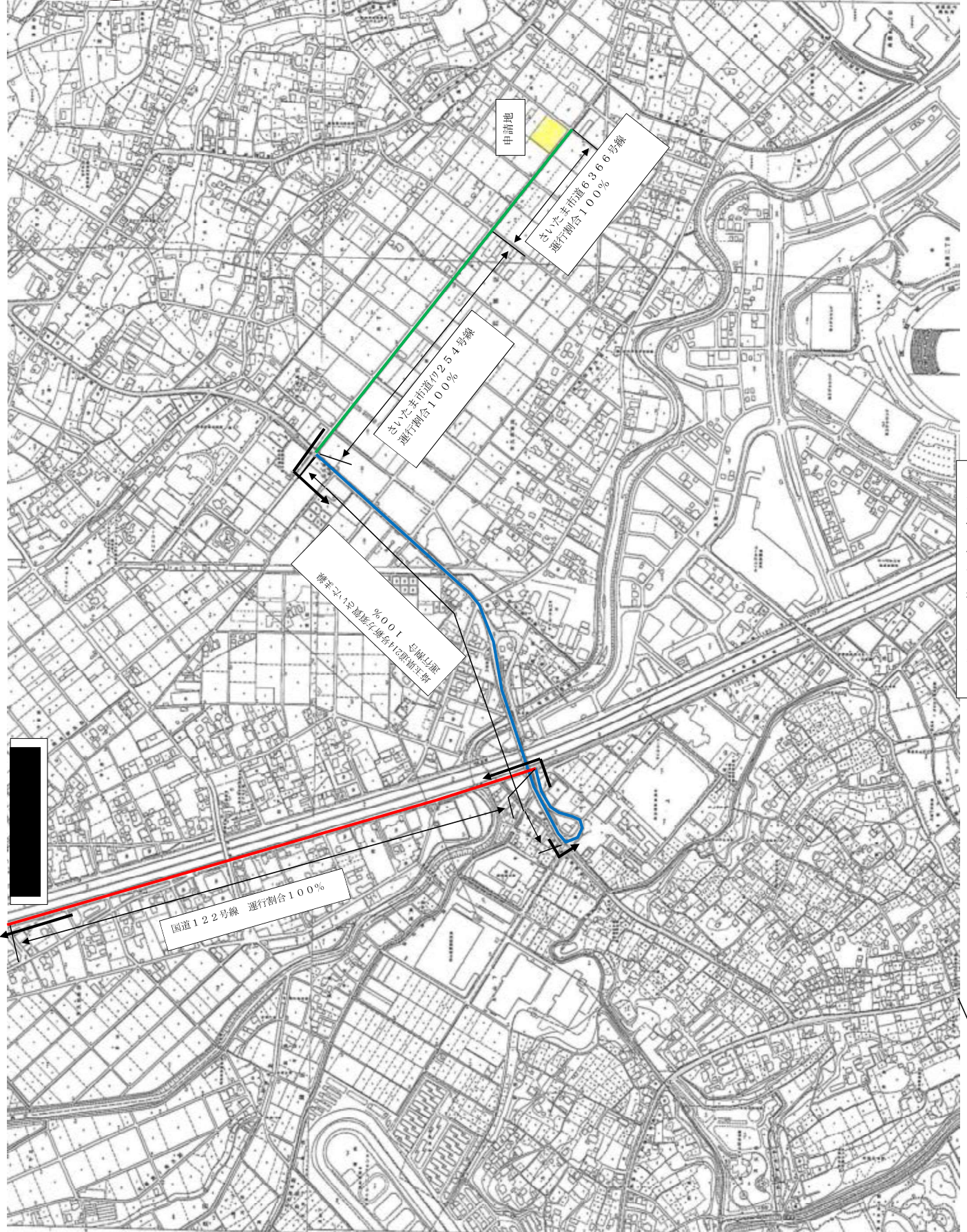
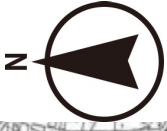


図3.1.2 搬出経路図



図3.1.3 経路南側住宅直近道路位置図

表3.3 建設機械別の騒音レベル

| 建設機械 | a | b | データ数 | バラツキ | 騒音レベル (dB) | | | |
|--------------|--------|-------|------|------|------------|----|-----|-----|
| | | | | | 1m | 5m | 10m | 30m |
| アースオーガ | -11.61 | 86.94 | 121 | ±4 | 87 | 79 | 75 | 70 |
| 圧砕機 | -17.46 | 97.24 | 78 | ±5 | 97 | 85 | 80 | 71 |
| クラッシュパイルハンマー | -6.06 | 78.09 | 29 | ±5 | 78 | 74 | 72 | 69 |
| クラムシエル | -14.74 | 88.58 | 26 | ±4 | 89 | 78 | 74 | 67 |
| クローラクレーン | -15.57 | 89.16 | 2 | ±0 | 89 | 78 | 74 | 66 |
| コンクリートポンプ車 | -15.88 | 90.05 | 71 | ±4 | 90 | 79 | 74 | 67 |
| 地盤改良機 | -24.88 | 96.38 | 6 | ±1 | 96 | 79 | 71 | 60 |
| 振動ローラー | -13.31 | 85.10 | 44 | ±5 | 85 | 76 | 72 | 65 |
| タンブトラック | -10.89 | 78.97 | 10 | ±4 | 79 | 71 | 68 | 63 |
| トレーラー | -12.53 | 83.35 | 4 | ±2 | 83 | 75 | 71 | 65 |
| ハイプロハンマー | -13.65 | 93.15 | 194 | ±6 | 93 | 84 | 80 | 73 |
| バックホウ | -12.61 | 87.17 | 233 | ±5 | 87 | 78 | 75 | 69 |
| ブルドーザー | -3.99 | 80.36 | 4 | ±1 | 80 | 78 | 76 | 74 |
| ブレーカー | -10.31 | 87.40 | 38 | ±4 | 87 | 80 | 77 | 72 |
| ホイールクレーン | -0.69 | 77.14 | 2 | ±0 | 77 | 77 | 76 | 76 |
| 杭圧入引抜機 | -8.01 | 86.93 | 68 | ±5 | 85 | 76 | 72 | 66 |
| ロータリーパーカッション | -12.5 | 86.80 | 12 | ±5 | 87 | 78 | 74 | 68 |
| ロードローラー | -10.82 | 86.37 | 17 | ±4 | 86 | 79 | 76 | 70 |
| ワイヤーソー | -29.83 | 94.47 | 2 | ±0 | 94 | 74 | 65 | 50 |

出典：平22都土木技術支援・人材育成センター年報 12. 建設工事に伴う騒音・振動の分析結果より引用。



備考：鋼板高さ3m

図3.3 鋼板の内側・外側における騒音レベル測定チャート

| 測定位置 | 発電機音(定常音) |
|----------|-----------|
| | |
| 外側 | 66 |
| 内側 | 77 |
| 差(内側-外側) | 11 |

4. 生活環境保全のために講ずることとした措置の内容

- ・産業廃棄物運搬車両の停車時のアイドリングストップ
- ・保管場所周辺の必要に応じた散水
- ・保管時の保管容器シート掛け
- ・重機は超低騒音型を使用
- ・定期的清掃による腐敗原因の除去
- ・保管物の早期搬出による、腐敗の防止
- ・雨水桝に網を設置する
- ・コンクリート舗装を行う

表4.1 対策と効果

| 対策 | 効果 |
|--------------------------------------|---------------------------|
| 産業廃棄物運搬車両の停車時のアイドリングストップ | 排気ガスによる二酸化窒素、浮遊粒子状物質の排出抑制 |
| 保管場所周辺の必要に応じた散水 | 粉塵の飛散防止 |
| 保管時の保管容器シート掛け | 粉塵の飛散防止 |
| 重機は超低騒音型を使用 | 騒音、振動の低減 |
| 定期的清掃による腐敗原因の除去 保管物の早期搬出による、腐敗の防止 | 腐敗による悪臭防止 |
| 雨水桝に網を設置する | 粉じん等の流出防止 |
| コンクリート舗装する | 地下浸透の防止 |